

平成 25 年度 第 1 回常任委員会議事録（案）

日 時：2013 年 5 月 21 日（火）14：00～17：00

場 所：土木学会 A B 会議室

出席者：

二羽委員長，岩波幹事長，池田，宇治，氏家，内田，鎌田，河合，河野，岸，佐伯，坂井，佐藤，島，鈴木，添田，武若，田中，谷村，土谷，津吉，名倉，信田，橋本，前川，松田，松村，丸山，睦好，森，森川，横田の各常任委員，石田，小林，濱田，久田，丸屋（記録）の各常任委員兼幹事，二瓶（事務局）（敬称略）

配付資料：

- 1-0 平成 25 年度 第 1 回コンクリート常任委員会 議事次第
- 1-1 平成 25-26 年度 コンクリート委員会 委員構成
- 1-2 平成 24 年度 第 6 回コンクリート常任委員会 議事録
- 1-3 平成 25 年度コンクリート委員会・常任委員会開催予定
- 1-4 2013 年制定コンクリート標準示方書〔維持管理編〕改訂の概要
- 1-5 2012 年制定 コンクリート標準示方書〔ダムコンクリート編〕改訂（案）の概要
- 1-6 規準関連小委員会 委員構成
- 1-7 コンクリート委員会・国際関連小委員会
- 1-8 がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会 委員構成
- 1-9 津波による橋梁構造物に及ぼす波力の評価に関する調査研究委員会（221）委員構成
- 1-10 示方書〔設計編〕に基づく「数値解析の認証」
- 1-11 平成 24 年度コンクリート委員会 一般会計 決算
- 1-12 平成 25 年度土木学会全国大会研究討論会（コンクリート委員会担当分）
- 1-13 施工性能にもとづくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会 委員構成
- 1-14 セメント系構築物と周辺地盤の化学的相互作用研究小委員会 委員構成
- 1-15 鉄筋コンクリート構造の疲労破壊研究小委員会（347）委員構成
- 1-16 塩害環境の定量評価に関する研究小委員会（348）委員構成
- 1-17 2012 制定 コンクリート標準示方書の発刊に伴う講習会のご案内
- 1-18 講習会 案内
- 1-19 2012 年制定 コンクリート標準示方書 発刊に伴う講習会のご案内（CPD 対象）

議 事

1. 委員長挨拶

二羽委員長より，政権交代で公共事業の増加にともなうインフラ整備も増え，コンクリートにも追い風であるが，身を引き締め地道に活動していきたいとの表明がなされた。また，本年度は示方書講習会や新たな委員会の立ち上げがあることから，それらへの尽力の要請がなされた。

2. 委員および幹事の紹介

委員・幹事より自己紹介がなされた。

睦好委員より構造工学委員長として，土木構造物共通示方書の改訂，橋梁維持管理指針（コンクリート橋，鋼橋）への協力要請がなされた。

3. 平成 24 年度第 6 回コンクリート常任委員会議事録の報告【資料 1-2】

下村幹事より，資料を用いて平成 24 年度第 6 回コンクリート常任委員会議事録が報告された。

4. 平成 25 年度コンクリート常任委員会開催日程【資料 1-3】

下村幹事より、平成 25 年度コンクリート常任委員会開催日程が報告された。議題提案は、幹事会前に幹事団へ連絡することのお願いがあった。

5. 審議事項

(1) 示方書維持管理編の審議【資料 1-4 及び回覧原稿】

維持管理編主査横田委員より、パワーポイントを用いて維持管理編の概要の説明がなされた。質疑応答は以下の通りである。〔Q：質問，A：回答，C：コメント〕

Q：2 章の維持管理区分 A，B，C は部材の要求性能か。道示の耐久性能 A，B，C と類似している。そうであるならば、耐久性能とした方がわかりやすい。（睦好委員）

A：耐久性能と重複する部分もある。設計と維持管理の融合を目指し、設計段階では維持管理区分を考慮した設計を行い、維持管理段階ではそれを踏まえて維持管理計画を策定する。（横田委員）

C：維持管理区分は性能だけでなく、維持管理の方法も含めたものである。（武若委員）

Q：個別構造物と構造物群の分けをどのようにするのか不明である。マルコフ連鎖は個別構造物ではなく構造物群に用いる方法ではないか。（河野委員）

Q：他の構造物のマルコフ連鎖の遷移確率のデータを、対象構造物に適用するのか。（森川委員）

C：想定構造物のスケールが異なっているのではないか。（小林幹事）

A：個別構造物を部材，部分の集合体とみなし、マルコフ連鎖を適用することが可能である。（横田委員）

Q：PC の維持管理に関して、PC 工学会での検討との整合はとれているか。（宇治委員）

A：PC 建協とは協議しており、問題はない。（横田委員）

●意見については、6 月 20 日までに、河合委員にメール、書式自由で連絡する。（下村幹事）

(2) 示方書ダムコンクリート編の審議【資料 1-5 及び回覧原稿】

ダムコンクリート編主査宇治委員より、パワーポイントを用いてダムコンクリート編の概要の説明がなされた。質疑応答は以下の通りである。〔Q：質問，A：回答，C：コメント〕

Q：本編と標準の役割が理解されていないのではないか。例えば、RCD や JIS 工場の記述は標準に入れるべきである。（河野委員）

A：巡航 RCD については本編の解説の記述程度ではあるが、全体に検討し見直す。（宇治委員）

Q：ひび割れ指数は、2012 年制定設計編を取り入れるのか。（丸屋幹事）

A：2012 年制定設計編と整合させる。（宇治委員）

●意見については、6 月 20 日までに、宇治委員にメール、書式自由で連絡する。（下村幹事）

●維持管理編とダムコンクリート編は「2013 年制定」となる。（岸委員）

(3) 第 1 種、第 2 種委員会の委員交替・追加【資料 1-6～1-9】

二羽委員長より、資料 1-1-1 を用いて委員会の種別（1，2，3 種）とその役割の説明の後、規準関連小委員会、国際関連小委員会、がれきの処分と有効利用に関する調査研究小委員会、津波による橋梁構造物に及ぼす波力の評価に関する調査研究委員会の委員の交代、追加が報告され、承認された。

(4) 示方書連絡調整小委員会の設置

二羽委員長より、示方書連絡調整小委員会の再開、その役割として発刊済みの基本原則編、設計編、施工編のアフタケア、若手中心の活動、委員長候補は佐藤委員であることの説明がなされ、設置が承認された。それを受け、二羽委員長より佐藤委員に委員の指名が指示された。関連内容として、示方書小委員会 は 10 月以降、運営部会程度の規模で継続予定であることが報告された。

(5) コンクリート構造物の総合的な安全確保のための検討小委員会（仮称）の設置

二羽委員長より、設計、施工、維持管理にわたるコンクリート構造物の総合的な安全確保、ならびに、コンクリート構造物の周辺に存在する附帯設備を含めて、コンクリート構造物の総合的な安全確保のための検討小委員会の設置、委員長候補は鎌田委員であること、委員にはコンクリートと異なる分野も含めることの提案がなされ、設置が承認された。それを受け、二羽委員長より鎌田委員に委員の指名が指示された。

河野委員より、同様の内容での土木学会としての活動状況について質問がなされ、鈴木委員より、学会のタスクフォースで5つの提言を出し知の体系化を図っていること、理念を作成していること、個別に関しては各委員会での活動とする計画であるとの回答がなされた。

河野委員より、失敗学会などとの連携は考えているかとの質問がなされ、二羽委員長より、必要に応じ失敗学会などから委員に入ってもらおうとの回答がなされた。

前川委員からのコメントとして、コンクリート以外の機械、電気を含めた構造物の検討（例えば、海水管とポンプステーションの設計）では、土木がまとめ役の役割を果たすことになることから、本検討委員会もコンクリート委員会に設置することは妥当なことである。

(6) 示方書に基づく数値解析認証小委員会（仮称）の設置【資料1-10】

下村幹事より資料を用いて示方書に基づく数値解析認証小委員会の説明がなされた。二羽委員長より、技術推進機構の運営会に諮り、評価事例としてはよい事例である、との意見が出された報告がなされた。質疑応答は以下の通りである。[Q：質問，A：回答，C：コメント]

Q：依頼者のメリットはなにか。（河野委員）

A：発注者の依頼により、解析の妥当性評価のためやみくもにケース数を多くするようなことがなくなる（下村幹事）

Q：モデルによって違う答えになる問題にお墨付きを与えるのはおかしくないか。（睦好委員）

A：安全係数が適切かどうか、評価するだけである。（佐藤委員）

C：責任は明確にしておくべきである。（内田委員）

Q：実験結果があるものは正解があることから評価の妥当性を判断できるが、これは正解がないものとの評価であることから、評価が難しくならないか。（睦好委員）

A：示方書に代表的な実験結果をベンチマークとして掲載しているので、それらへの適合性を見ることで妥当性が判断できる。（下村委員）

C：近くに必ずしも数値解析の専門家がない地方の技術者にも役立つものであり、社会貢献にもなる。（二羽委員長）

Q：依頼件数の見込みはどうか。（田中委員）

A：原子力のバックチェックが考えられる。（前川委員）

Q：裁判になることも想定しているか。（河野委員）

A：とくに想定していない。（下村幹事）

Q：土の非線形などを考慮して土も依頼を受けることにするか。（森委員）

A：考えていない。場合によっては制限つきで検討に入ることもある（前川委員）

C：依頼を断るルートも考えておく必要がある。（岩波幹事長）

C：責任範囲、回答範囲、検討期間を明確にしておくべきである。（津吉委員）

Q：非線形の構造解析だけが対象か。（武若委員）

A：示方書〔設計編：標準〕の非線形解析の編に合致しているかどうかを確認することを当面の対象とする。（前川委員） A：本日の質疑を踏まえ、次回常任委員会で再提案する。

(7) 100周年記念出版小委員会の設置

二羽委員長より、100周年記念出版小委員会の設置が提案され、承認された。二羽委員長より丸屋幹事が委員長に指名され、委員の選定が指示された。

(8) 非鉄スラグ骨材を用いたコンクリート研究小委員会の設置

二羽委員長より、非鉄スラグ骨材を用いたコンクリート研究小委員会の設置が提案され、承認された。委員長に宇治委員が指名され、委員の選定が指示された。

(9) その他

岩波幹事長より、示方書連絡調整小委員会は224、コンクリート構造物の総合的な安全確保のための検討小委員会は225、100周年記念出版小委員会は226、非鉄スラグ骨材を用いたコンクリート研究小委員会（仮称）は269であることが報告された。

6. 報告事項

(1) 示方書規準編関連

鎌田委員より、11月13日の午後、土木学会講堂で講習会を予定していること、2010年版は黒字に転じたことが報告された。

(2) 平成24年度決算報告【資料1-11】

岩波幹事長より、資料を用いて報告があった。

(3) 平成25年度土木学会全国大会における研究討論会【資料1-12】

下村委員より、資料を用いて報告があった。

(4) 3種委員会の委員構成【資料1-13～資料1-16】

橋本委員、石田幹事、佐藤委員、佐伯委員から、3種委員会の委員構成が報告された。

(5) 2012年制定コンクリート標準示方書発刊に伴う講習会報告

下村幹事より、盛会で終了したことの報告がなされた。

(6) 報告会・講習会開催案内【資料1-17～資料1-19】

小林幹事、下村幹事、佐藤委員より中部、東北、北海道の支部開催の報告がなされた。

河野委員より、示方書講習会の支部開催のアナウンスが早かったため、本部開催の人数が減った可能性があることの指摘がなされた。

二瓶氏より、講習会参加費用は、非会員は会員の2倍の額であることが学会規定であると報告された。

河合委員より、本部主催の示方書講習会のアナウンスが遅いと支部開催の会告が遅くなるとの指摘がなされた。

河野委員より、2012年制定版は2007年制定版のときよりも、質問が少ないとの報告があった。

岸委員より、本部と支部開催のインターバルは3か月でよいとのコメントがあった。

(7) その他

示方書講習会で使用したスライドの貸し出し方法を岩波幹事長が確認する。

岩波幹事長より、別途メールで依頼したJCIからのISO原案に対する意見照会の回答期限は5月31日までとするとの報告があった。

岩波幹事長より、平成24年度の土木学会の研究委員会の活動度評価において、コンクリート委員会は最も高いA評価であったことが報告された。

岩波幹事長より、6月25日までに議題を幹事団に送付するようお願いがあった。

以 上